

15	豊川	豊小学校	サノ ミナミ 名前 佐野 みなみ
分科会番号	06	分科会名	生活科教育

研究題目

季節に興味関心をもち、粘り強く試行錯誤する子の育成

～ 1年 生活科「あきばんぱくへようこそ！」の実践を通して ～

1 主題設定の理由

本学級の児童は、課題に対して前向きに取り組むことができる。特に生活科の授業では、「種を見てみよう」と声をかけると、「わーい」「やったあ」と言ってすすんで活動できる。1学期に行った「あさがおをそだてよう」の単元では、種や葉っぱの様子を「ざらざらしている」「腰くらいまでの高さ」「ほうれん草と同じにおいがする」というように、諸感覚を使って表現できた。その一方で、最後まで諦めず取り組むことや一つのことを継続して取り組むことが苦手である。「なつとなかよし」の単元では、シャボン玉を作って遊ぶ学習を行った。家からいくつも道具を持ってきてそれらを組み合わせて意欲的に取り組み始めたが、実際にシャボン玉を飛ばしてみると、上手く飛ばすことができず、泣き出してしまう子や座り込んでしまう姿が見られた。また、季節感がまだ育まれていない子が多いと感じる。給食のときに「大葉は冬の食べ物だよ」「人参は秋」と言う子がいた。平成29年度に告示された学習指導要領生活科の解説では「秋の自然の様子や夏から秋への変化、それを利用した遊びの面白さに気付くとともに、季節の変化を取り入れ自分の生活を楽しんだり、みんなと楽しみながら遊びを作り出そうとしたりすること」が求められている。季節の変化に気付いたり自然とかかわったりすることで、より生活を豊かにできるだろう。そこで、今回は「あきとなかよし」という単元を扱う。秋は、葉が緑色から茶色になったり、触感がしっとりしたものからかさかさするようになったり、他の季節より変化がわかりやすい。季節を意識した体験が少ない子どもたちにとって、本単元は諸感覚を使って季節をより実感できる有用な機会となるだろう。また、秋の自然物は収穫するだけではなくどんぐりを使ってマラカスを作るなど活動を広げることができ、子どもが試行錯誤しながら活動していくのに適している。単元を進めていくにあたって、子どもが秋をたくさん感じられる環境を設定し季節に興味をもつようにしたい。そして、仲間とかかわりながら解決する場や成長を実感する場を設けることで粘り強く試行錯誤する姿へとつなげたい。

2 めざす子ども像

- ・季節に興味関心をもって生活できる子
- ・粘り強く試行錯誤できる子

3 研究の仮説と手立て

仮説Ⅰ 秋を感じることができる環境をたくさん用意することで、季節に興味関心をもって生活できるだろう

手立てⅠ-ア 教室に秋に関連するものをたくさん配置する

- ・教室の後ろに秋に関連する本を置くことで、秋に興味をもち、子どもがいつでも調べられるようにする。単元を始める前に教室に本や松ぼっくり、いちょうの葉を置いておくことで子どもの興味関心を喚起し活動へつなげる。

- ・さつまいもの蔓を教室の柱に巻き付けたり、子どもたちがつくったり拾ってきたりした秋のものを教室にたくさん飾ったりする。教室に秋のものをたくさん配置することで、いつでも調べたり触ったり嗅いだりできるようにする(資料1)。



資料1 秋のもののコーナー

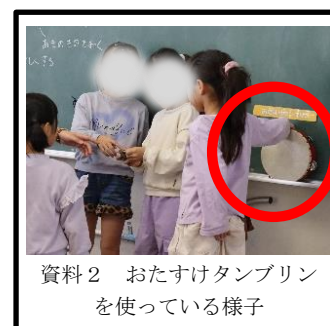
手立てⅠ-イ 秋、オリジナルのキャラクターを登場させる

- ・子どもたちと一緒に秋にしか会えないオリジナルのキャラクターを作る。キャラクターをつくることで、秋に興味関心をもつきっかけとしたい。授業では、キャラクターから手紙が届くことで活動のきっかけとなるようにする。

仮説Ⅱ 仲間と課題を解決する場や取り組みの過程を振り返り、自分の成長に気付くことができる場を工夫することで、粘り強く試行錯誤できるようになるだろう。

手立てⅡ-ア 仲間と課題を解決する場の工夫

- ・活動中にタンブリンを3回鳴らすと、仲間が来てアドバイスをくれるという「おたすけタンブリン」を導入する。仲間に円滑に助けを求められるようにすることで、諦めず活動に取り組むことができるだろう(資料2)。
- ・秋万博にむけて、仲間とともに問題点や改善点を話し合う場を何度も設けることで、試行錯誤できるようにする。



資料2 おたすけタンブリンを使っている様子

手立てⅡ-イ 自分の成長に気づくことができる場の工夫

- ・学習の足跡を掲示し、活動を写真で振り返られるようにする。学びを記録していくことで子どもが自らの成長を実感できるようにする(資料3)。
- ・「秋の〇〇マスター」や「やったあど」というように、自分がどこまでできているのか考えさせる場面を設ける。レベルを設定することでどこまでできるようになったのかわかるようにする。また、活動が進むごとに秋のキャラクターを進化させることで、子どもが成長を実感できるようにする。
- ・振り返りシートには「やったあど」を書く欄を設ける。「やったあど」は、その日の達成度を10の内のいくつかをピースサインに色を塗ることで表す。シートを蓄積していくことで自分の成長を実感できるようにする(資料4)。



資料3 学習の足跡

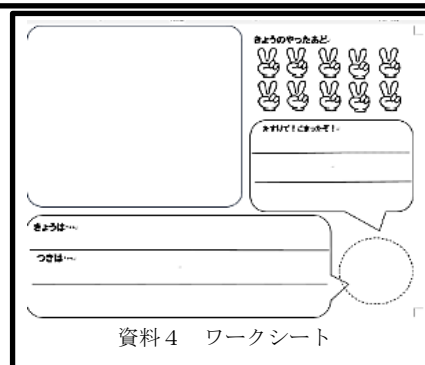
4 研究の計画

(1) 単元指導計画

6 ページ参照

(2) 抽出児童の実態と抽出児童に期待する姿

抽出児童Aは、「なつとなかよし」で、持ってきたハンガーの形を変形させてより大きなしゃぼん玉を作ろうと前向きに取り組むことができた。しかし、上手くしゃぼん玉がつかれず階段に座り込んでしまった。「こうしたら?」という担任の声かけにも「無理だしー」と言い諦めてしまった。給食のときには、友達と「大葉は葉っぱだから冬の食べ物だよ」と話していた。このような姿から、A児には、季節に対



資料4 ワークシート

する豊かな感性が育まれてほしいと思う。そして、粘り強く試行錯誤できるようになってほしいと願う。

5 研究の実践と考察

(1) 秋を見つける

単元を始める前、廊下や教室にいちじくの葉やソメイヨシノの葉、秋に関する図鑑、絵本を置いた【手立てⅠーア】。すると、何人かの児童が「先生、同じもの見つけてきた」と拾ってきた。それを見たA児を始め多くの児童が休み時間に葉っぱを拾い集めた。葉っぱを拾っていく中でどんぐりを拾ってきた児童もいた。担任が、「何でどんぐりを拾えるようになったんだろうね？」と問うと児童から「秋だから」と返ってきた。「豊小学校にもあるのかな？」と言うと「あるよ」「あるある」「探しに行こうよ」と単元を始めることができた。ここで、送り主がわからない手紙が3組へ届いたことを担任が伝えると「えー！誰？」「先生、読んで！」と反応があった【手立てⅠーイ】。手紙の内容は「3組のみんなこんにちは！僕は少しの間、みんなに会うことができるから遊びに来たよ。みんな僕のすることを見つけてね！」というものだった。手紙を読んだ子どもたちは、「先生かなあ」「早く見たい」とキャラクターに興味をもった様子だった。休み時間にどんぐりや葉っぱを拾いに行ったA児の姿や反応から、秋の自然物に興味をもったといえるだろう。

(2) 秋の〇〇マスターを目指す

秋のオリジナルキャラクターを子どもたちと考えた【手立てⅠーイ】。子どもからは「爪はどんぐりになってる」「名前はあきどんぐりちゃん」と意見が出た。A児は「頭はどんぐりの帽子」といった。子どもたちの意見をもとにキャラクターが完成した(資料5)。手紙の送り主が「あきどんぐりちゃん」だと明かされると同時に「あきどんぐりちゃん」から「秋の〇〇マスターを目指してほしい」とお手紙が届いた。児童は、葉っぱ・食べ物・どんぐり・虫・花の中からなりたいマスターを選び、活動を始めた。A児は「秋の葉っぱマスター」を選び、活動に取り掛かった【手立てⅡーイ】。レベル1の「名前を5つ言える」(資料6)では、A児が学級文庫にある図鑑を持ってきて、友達と一緒に調べることができた(資料7)【手立てⅠーア】。「忘れちゃうから覚えるの」とい



資料5 手紙の送り主の正体

〇〇マスターをめざせ！ レベルいちらん

レベル3 いろいろな〇〇をがようしにまとめることができる

レベル2 〇〇を5つ(10つ)あつめることができる

レベル1 〇〇のなまえを5つ いえる

資料6 〇〇マスター一覧表



資料7 図鑑を持ってきて調べているA児

い自由帳に葉っぱの名前を書き出し、お道具箱にしまっていた。レベル2の「秋の葉っぱを10枚集める」も休み時間に外へ行き、集めることができた。レベル3の「色々な秋の葉っぱを画用紙にまとめることができる」では「どうやってまとめる？」とA児を含めた葉っぱマスターの子どもたちに問うと「教室にあるダンボールにまとめる」といいダンボールに葉っぱを貼っていった。しかし、まとめていく途中に、「もう、どの葉っぱかわからない」「分けられない」といい活動をやめてしまっ

た。「まず、葉っぱを仕分けたら？」と担任が言うも「うーん」と言いながら手が止まってしまった。その後、学級運営支援員がついて葉っぱを分けた。A児が自ら本を持ってきて調べたり、自由帳に書き出したりしている様子から興味関心をもったといえるだろう。試行錯誤を繰り返してまとめることができたA児であったが、最終的に「私一人の力でできなかった」とつぶやき、悔しそうな様子であった。

(3) 秋のおもちゃを作って遊ぶ

子どもたちが「秋の〇〇マスター」を目指したことでキャラクターもレベルアップさせた【手立てⅡ

ーイ】。裸だった姿から落ち葉の服を着た姿に変身させた(資料 12 ②)。子どもたちからは「かわいい」「次、レベルが上がったら剣を持つんだよ」とキャラクターに対して興味をもつ姿が見られた。その後「あきどんぐりちゃん」から「作ってみてね」という手紙が届き、担任がどんぐりごまを回して見せると子どもから「わあ」「すごい!」「やりたい!」と反応があった。A児はやじろべえを選び、作り始めた。しかし、うまく作れず「無理!」「わからないもん!」と言い他の仲間が作っている様子を見ていた。その日の振り返りの「やったあど」【手立てⅡーイ】は2と低く、振り返りには「やじろべえが作れない」と書いてあった。次の時間、「おたすけタンブリン」【手立てⅡーア】でA児はクラスの仲間に作り方を聞くことができた(資料8)。仲間からテープをつければ良いというアドバイスを受け、A児は材料コーナーからマスキングテープを持ってきて、竹串とどんぐりをつなげ始めた。その日の振り返りには、「もっとじょうずになりたいです」と記述されていた(資料9)。作り始めた時は「無理」と言って作るのをやめてしまい諦めようとする様子が見られたが、次の時間、クラスの仲間に聞いて取り組んだ姿や「もっとじょうずになりたい」という言葉、その日の「やったあど」が3に上がったことから、諦めず試行錯誤する姿につながったといえるだろう。

(4)秋万博の計画を立てる

2年生のおもちゃランドに招かれて遊んだ後、子どもに感想を聞くと「楽しかった」「2年生ってすごい」と返ってきた。担任が大阪万博に行った時の写真を子どもに見せると「すごい」「自分たちもやりたい」と万博を開くことに興味をもった。そこで、子どもたちとどんな万博にしたいか話し合ったところ「みんなが嬉しい」「笑顔になってほしい」「秋でたくさんにしたい」と意見が出た。誰を招待するのかは、おもちゃランドに招待してくれた2年生ということに決まった。

(5)秋万博に向けて準備をする。

A児は他の二人の児童とグループになり「やじろべえパビリオン」としてやじろべえ作りに取り組んだ。A児はやじろべえの数を増やすためにB児、C児と一緒に取り組んだ。作っている中で、難しいのをつくりたいということで「やじろべえパビリオン」は、やじろべえの先をどんぐりから松ぼっくりにすることに決めた。しかし、竹串の先に松ぼっくりをつけようとしても上手く固定することができず、「無理」「どうしよう」と言っていた。そこで、A児を含めたやじろべえパビリオンは「おたすけタンブリン」で「松ぼっくりがつけられません。どうしたらいいですか」と聞いた。すると他のパビリオンから「ガムテープで貼るといいよ」「ボンドをつけたあと、テープを巻くといいと思います」というアドバイスをもらった。A児は竹串と松ぼっくりをボンドでつけ、その上からガムテープとマスキングテープを貼り付けた(資料10)。

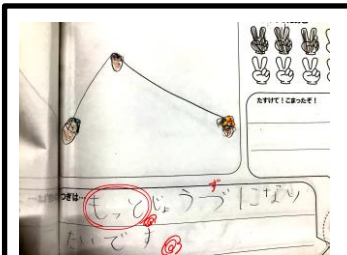
2年生を招待する前に、リハーサルをした。リハーサルで他のクラスの児童を呼んで実際に遊んでもらった。すると、やじろべえの松ぼっくりが取れてしまった。その日のA児の振り返りには「こわれていたので、なおしました」「つぎは、こわれないうようにつくるです」とあった(資料11)。次の時間、A児はマ

A児 : やじろべえが作れません。
どうしたらいいですか。

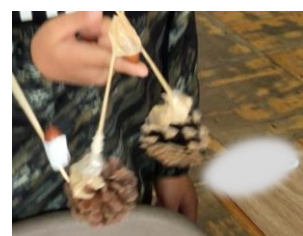
児童B: 本を見るといいと思います。

児童C: ボンドをつけてその上から
テープをつければ良いと思
います。

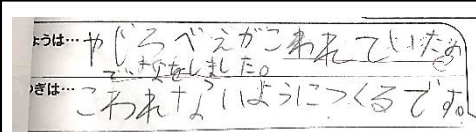
資料8 児童のやり取りの内容



資料9 A児の振り返り



資料10 アドバイスを聞いた後に作ったやじろべえ



資料11 A児の振り返り

スキングテープを上からぐるぐる貼り、松ぼっくりを付け直した。A児のやじろべえが壊れても、「こわれないようにする」という振り返りの言葉や作り直した様子から、諦めずに試行錯誤できたといえるだろう。

(6) 2年生を招待する。

おもちゃが完成したところで、2年生を招待した。「やじろべえパビリオン」は、2年生に、「短いと、長いどっちがいいですか?」「松ぼっくりとどんぐりどっちがいいですか?」と聞きながら、遊び方を説明していた。秋万博が終わった後のA児の振り返りには、「2年生の子がくるのドキドキしたけど、たのしそうですごくいいとおもった。」とあった。そこで担任が「何がすごいと思ったの?」と問うと「楽しいおもちゃをつくった私たちがすごいと思った」と答えた。その日のA児の「やったあど」は10であり、A児が「先生、今日のやっとなどは10なんだよ!」と嬉しそうに報告してきた。



2年生を招待し秋万博を成功させたことで、「あきどんぐりちゃん」が豪華になった(資料12)【手立てⅡ-イ】。豪華になった「あきどんぐりちゃん」を見て子どもたちから「わあ!よかったね」「最初は裸だったのに、すごい!」「私たちが、がんばったからだ!」と初期の「あきどんぐりちゃん」と比べて感動していた。

(7) 「あきどんぐりちゃん」へお手紙を書く

単元の最後「あきどんぐりちゃん」から「僕はこれでみんなとお別れしないといけないけれど、また会えるといいな。ばいばい」と手紙が届いた。手紙を読んだ子どもからは「ええ」「やだ」「悲しい」と声があがった。そこで「どんぐりちゃん」へお手紙を書くことにした。A児のお手紙には「あきどんぐりちゃんとあきであそべてたのしかったよ」「おわかれがさびしいよ」「また、あきにあおうね」と書いていた。A児の「あきであそべてたのしかったよ」という言葉から季節に興味をもったといえるだろう。

6 研究の成果と課題

手立てⅠ-ア 教室に秋に関連するものをたくさん配置する

教室にある葉っぱを子どもたちが触っていたり、秋の本を休み時間に読んでいたりする様子が見られ子どもが興味関心をもつことができた。特に実践(1)(2)で、A児が休み時間に葉っぱを集めにいったり、秋の本をもってきて読んだりする姿があった。このようなA児の姿から今回の手立ては有効であったといえるだろう。

手立てⅠ-イ 秋、オリジナルのキャラクターを登場させる

オリジナルのキャラクターと親しみをもって過ごす姿がみられた。特にA児はキャラクターの姿を考える際に、「頭はどんぐりのぼうし」と発言したり、お手紙に「また会おうね」と書いていたりする様子から、秋に興味関心をもつことができたといえるだろう。このようなA児の姿からオリジナルのキャラクターを登場させることは、秋に興味関心をもたせる手立てとして有効であったと考える。

手立てⅡ-ア 仲間と課題を解決する場の工夫

「おたすけタンブリン」を何回か使い、仲間に相談する姿が見られた。特に実践(3)(5)ではA児がやじろべえが作れず困っていた時に、タンブリンを使い友達に聞くことができた。その後、A児が友達から聞いたアドバイスをもとにおもちゃづくりを開始する様子から、粘り強く試行錯誤する姿につながったといえるだろう。また、A児は実践(3)でやじろべえを上手く作れない場面があったのにも関わらず、実践(5)で引き続き「やじろべえパビリオン」を選んだ。その様子からも手立てがA児の粘り強く

取り組む姿につながったと考えられる。

手立てⅡ-イ 自分の成長に気付くことができる場の工夫

学習の足跡を教室の背面に掲示したことで、児童の「私たちって秋のこといっぱいやったね」「どんぐりちゃんって裸だったのにすごい変わってる」というつぶやきのように、自分の学習を振り返り成長を実感する機会になった。

〇〇マスターを設定したことで、A児が友達と一緒に葉っぱの名前を調べたり、休み時間に葉っぱを集めたり自分のレベルを上げるために粘り強く活動している様子が見られた。

「やったあど」を毎時間書かせ、少しずつピースサインが増えていくことで、1年生でも自分の成長を実感することができ有効な手立てになったと考える。

7 おわりに

本単元の学習が終わったとき、子どもが「先生、今度はふゆちゃん来るのかな?」「落ち葉もどんぐりも無くなっちゃったから、もう遊べないよ」「いや、今度は木の枝と雪があるから、またおもちゃ作れるよ」と次の季節に興味をもつ姿がみられた。

A児には今回の単元をきっかけに、様々な活動に夢中になって取り組み、より粘り強く試行錯誤する子に育ってほしいと願う。そして、子どもがわくわくして取り組めるような授業づくりに励むとともに、子どもと活動や体験を共にし、感動や発見を分かち合える教師をめざしたい。

8 その他 単元構想図(18時間完了)

学習の流れ	【手立て】
夏から変わったところはどこか見つけよう① ※A※B※F	※A 秋限定のキャラクターからメッセージを届けることで、秋に興味関心をもたせる。
・葉っぱが赤くなっているよ。 ・どんぐりが落ちていたよ。 ・バツが飛んでいたよ。	※B 教室内に、子どもたちが見つけたどんぐりや葉っぱを掲示したり、秋に関する図鑑や本を置いたりすることで、秋を身近に感じられるようにする。
秋を見つけないこう②③ ※A※B※F	※C 去年の秋祭りの写真や、2年生のおもちゃランドの様子を見せ、「どんな工夫をしているのかな」と問うことで、自分たちのパビリオンに興味をもってもらうための工夫について考えさせる。
「(秋の)〇〇マスター」を目ざそう④⑤⑥※A※B※C※D※F	※D 「(秋の)〇〇マスター」のレベルを上げるにはどうしたらいいのか問いかけることで、継続して秋に関わっていけるようにする。
秋のものを使ったおもちゃを作って遊んでみよう⑦⑧⑨※B※C※D※E※G	※E 作る、紹介する、遊び合う活動を繰り返すことで、友達の意見を参考にしながらおもちゃ作りに取り組めるようにする。
・どんぐりをコップの中に入れると、マラカスみたいになるんだね。 ・どんぐりのやじろべえは、ゆらゆらして面白いな。 ・クヌギのほうがよくまわるね。・紐をしっかりつけないと取れちゃうよ。	※F ワークシートに、見つけたものから吹き出しを書いておくことで、気持ちとものの特徴を書けるようにする。
2年生のために、秋万博を開く準備をしよう⑩⑪⑫ ※G	※G おもちゃについて、工夫したところやがんばったところについて振り返らせ、自身の成果を見返すことができるようにすることで、学ぶ喜びを実感させる。
・2年生に楽しんでもらいたいな。 ・より長くもっていたほうが勝ちにしよう。 ・こまを回すバトル場を作ろう。	
2年生のために、秋万博をレベルアップさせよう ⑬※C※G※	
・投げる時の線をもっと遠くにしてみよう。 ・難しくするために紐の長さを長くしてみよう。 ・2年生はいくつもコースを作っていたよ。ぼくたちも作ろう。	
秋万博のリハーサルをしよう⑭⑮※E※G	
・ポイントがあって面白かったよ。 ・紐を短くするともっと楽しくなると思います。	
2年生を秋万博に招待しよう⑯⑰ ※E※G	
・ペアのお姉さんに遊んでもらえて嬉しかったよ。 ・楽しかったよって手紙に書いてくれたよ。 ・お昼休みも呼びたいな。	
秋へ感謝のお手紙を書こう⑱※F※G	
・たくさん秋について知ることができたよ。 ・秋のいいところをみんなに伝えるよ。 ・また来年も来てね。	